



# JICAME 通信

JICA カメルーン事務所

2013年6月 第12号

## ★★★★目次★★★★

1. 「きれいな学校」コンクール
2. 帰国ボランティアからのメッセージ
3. ようこそカメルーンへ

## ★★★★ 6月の予定 ★★★★★

### 【事業・事務所の動き】

- ★ 6月16日～23日：森健康管理員コートジボワール出張
- ★ 6月30日～7月5日：JICA 安全管理室安全対策巡回指導調査団来訪

### 【人の動き】

- ★ 6月1日：遠藤専門家着任（SATREPS FOSAS プロジェクト・業務調整）
- ★ 6月18日：JOCV 帰任（平成22年度4次隊、23年度1次隊、24年度9次隊短期）

## ★★★★ 7月の予定 ★★★★★

### 【事業・事務所の動き】

- ★ 7月2日～3日：アフリカ開発銀行（AfDB）主催道路セクターワークショップ
- ★ 7月2日～4日：北部州安全確認調査
- ★ 7月2日～12日：惣慶専門家ガボン出張
- ★ 7月7日～10日：ケニア SMASSE 終了時評価にかかる第三国研修参加者ヒアリング調査

### 【人の動き】

- ★ 7月2日：平成25年度1次隊3名着任（小掠真由美JV、岡部秀樹JV、小野洋文JV）
- ★ 7月9日：杉山専門家離任



## 第2回「きれいな学校」コンクール

所長 矢部優慈郎

「毎日、教室の掃除をします!」、「トイレをきれいに使います!」、「花を植えて水をあげます!」小学生の元気な声が校庭に響き渡る。カメルーン教育省が主催する「きれいな学校」(la belle école) コンクール表彰式が5月23日、ドゥアラで開催された。

中央州で行われた第1回(2011年)に次ぐ今回のコンクールは2012年11月に始まり、沿岸州ドゥアラ市内の小学校14校が参加。教室、校庭、トイレ、施設の周囲の衛生、緑化、清潔さを州教育局が審査し、表彰する企画である。

優勝はNylon小学校。日本の無償援助で建てられたのが2000年で、「école japonaise(日本の学校)」と呼ばれ、親しまれている。10年以上経っても施設がメンテナンスされているのは立派。生徒や教員のみならず、親や地域コミュニティーが学校を誇りに思い、大事にしている証しであると感じた。

式典では教師や父兄が見守る中、各校生徒代表がスピーチや寸劇で自分たちの「きれいな学校」をアピール。列席の州知事から気前よくポケットマネーのご祝儀が配られ、さらに賞金として1位25万FCFA(約5万円)、2位18万FCFA、3位10万FCFAが授与された。JICAからは5位までの入賞校に掃除用具を寄贈した。

JICAはアフリカで「みんなの学校」、「きれいな病院」といったプロジェクトを展開しているが、「きれいな学校」というスローガンがカメルーンで提唱され、全校挙げて取り組んでいることは喜ばしい。生徒たちが衛生・美化や環境保全に関心を持ち、心身ともに成長してほしいと願う。

カメルーンでは、1997年以降日本の協力で小学校が建設されており、全国10州で1521教室の増設は教育へのアクセス向上に大きな貢献を果たしている。また、施設の耐久性・維持管理費の抑制に加えて、トイレの新設による衛生改善が高く評価されている。



## 帰国ボランティアからのメッセージ



山本 文子 SV (初等教育)

小学校で定例の授業をやりつつ、20回のワークショップやセミナーと2回の大運動会、長い休み毎の音楽教室を開き、指導案集の執筆発行も行った。これらの活動は、やる気満々の子どもたち、とことん頑張る現地の先生方や所属長、若い隊員らと調整員の支援のお蔭。

自分一人で悩まずに、全隊員と連携し、周りに声を掛けつつ楽しく活動して下さい。



落合 真 JV (放送)

おかげさまで無事に2年間の任期を終えることが出来ました。大きな怪我や病気もなく、事務所の方々やボランティアの皆さんのおかげでとても充実した日々を過ごせました。思い起こすと楽しい思い出ばかりです。まあ任国外旅行ではいろいろありましたが……。皆さんも残りのカメルーン生活、思いっきり楽しんでください！



清水 郁美 JV (小学校教諭)

ついに任期が終わってしまいます。いざ自分の帰国となるとうれしいような悲しいような……。いろんなことがあったはずなのに、振り返ると日本人カメルーン人間わず、たくさんの人の笑顔が思い浮かんできます。とってもハッピーな二年間でした。お世話になったみなさま、本当にありがとうございました！



谷本 知穂 JV (小学校教諭)

長い長いと思っていたカメルーンでの生活も気がつけば終わりを迎えてしまいました。カメ人との生活は大変なことも多かったです。今となっては全て楽しい思い出です。また活動外でも、この2年間でしかできなかったことをたくさんできたように思います。本当にみなさんのおかげで素敵なカメライフを送ることができました。ありがとうございました



上橋 しほと JV (幼児教育：短期)

「またカメルーンに来たい」という思いで再び着任したカメルーン、「今回はうまく活動を」と思っていたもののそんなに甘くはなく、以前と同じような失敗をたくさん繰り返した中で活動したあつという間の9ヶ月間でした。それでも素敵な日々を過ごせました。

皆様におかれましても任国の明るい未来を願いつつ頑張っていっていただきたいです。

どうもありがとうございました。

## ようこそ カメルーンへ 専門家自己紹介



稲場 彩 Ms. AYA Inaba

火口湖ガス災害防止の総合対策と人材育成プロジェクト専門家  
(業務調整)

出身県：東京都

趣味：旅、湯治、月見、食べること

抱負：ニオス・マヌーン両湖の防災システムを確立し、世界中に点在する火口湖の防災モデルに・・・と密かに思っています。

調整役として精一杯頑張ります。



遠藤 和士 Mr. Kazushi Endo

カメルーン熱帯雨林とその周辺地域における持続的生業戦略の確立と自然資源管理プロジェクト (FOSAS) 専門家 (業務調整)

出身県：福岡県

趣味：映画、本、音楽

抱負：初めて来た中ア地域で、ボーリングブリッジがあることに度肝を抜かれて始まったカメルーン生活を満喫したい、と言いたいところですが、まずは、自分の仕事をそつなくこなすことが最優先です。

編集・発行人 矢部 優慈郎

JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先: ca\_oso\_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ: <http://www.jica.go.jp/cameroon/office/index.html>